

気になる爪の痛みは、こうして治そう！

ひとりで悩んでいる爪の痛み…。そんな人も案外多いのでは？
そこで、気になる爪の痛みについて『整形外科 はせべ医院』院長・長谷部先生にお話をうかがいました。



長谷部 了院長
プロフィール

昭和61年、群馬大学医学部を卒業し群馬整形外科教室に入局。手および肘の手術を多数経験する。平成10年「はせべ医院」を開院。日本手の外科学会会員・日本リウマチ財団登録医

「右手人差し指の爪のまわりが腫れ、赤くなっているのですが、どうしたのでしょうか？」

長谷部 爪のまわりから菌が入り爪の周りの皮膚の下に感染(爪周囲炎)をおこしたのではないかと思われます。一般的には、爪のまわりが赤くなり、徐々に腫れていきます。これがひどくなると、薄い皮膚の下にクリーム色の膿がたまってくる(図1)。

「そうした場合、どのように対処したらよいのでしょうか？」

爪周囲炎

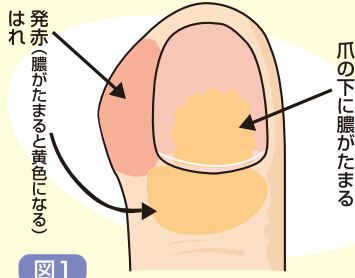


図1



図2

陥入爪

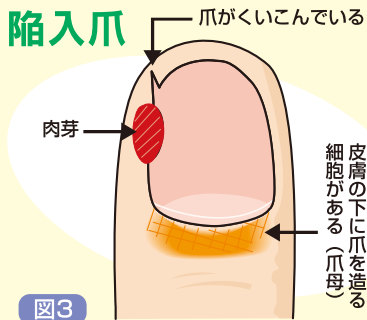


図3

手術

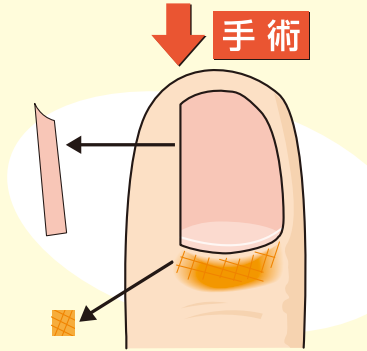


図4

早く身近な医師に相談しよう！

「他にはどのような爪の病気がありますか？」

長谷部 足の親指の爪のわきが、深く食い込み炎症をおこす陥入爪(図3)と呼ばれる病気があります。先の狭いくつを長くはき続けたり、スポーツによる走りすぎ、また水虫(足白癬症)がある場合にもなりやすいと思われる。ひどくなると爪の食い込んでいる部分に感染をおこし、膿が流れ出たり肉芽を作ったりします。

「それでは、それらの予防法を教えてください。」

長谷部 当然、足を日頃からきれいにするように

「もし、発症した場合はどのように治療をすればよいのですか？」

長谷部 爪廓部(爪の脇の皮膚)の軽い赤みであれば消毒を欠かさず行い、かつ化膿止めの薬を飲むことで症状は軽くなります。しかし、いつまでも痛みが続いたり膿が残っている場合、また肉芽ができた場合は手術治療が必要となります。手術にはいろいろな方法がありますが、私は、局所麻酔で食い込んでいる爪と爪母(爪の生えてくる組織)を切除する方法(図4)を勧めています。この方法だともう二度と爪が食い込まないようになるからです。

「いずれにせよ、いつまでも悩んでいないで早く医師の診察を受けることが大切です。」

手の外科 日曜診療 整形外科 はせべ医院

●診療時間 9:00~12:00 / 15:00~18:00

●休診日 木曜午後、金曜、祝日

高崎市井野町983(駐車場50台完備)

TEL.027(361)0177

取材協力

